

2018年12月7日 第257号

憲法共同センターNEWS

戦争する国づくりストップ！憲法を守り・いかす共同センター
〒113-8462 文京区湯島 2-4-4 全労連会館 03-5842-5611 (FAX 5842-5620)
http://www.kyodo-center.jp mail: move@zenroren.gr.jp

辺野古新基地建設強行を許さない首都圏集会

辺野古に基地は作らせない！

市民と野党が共闘し、沖縄に連帯して全国各地でたたかおう

基地の県内移設に反対する県民会議、戦争させない・9条壊すな！総がかり行動実行委員会、「止めよう！辺野古埋立て」国会包囲実行委員会は12月6日夜、日本教育会館一ツ橋ホールで「沖縄の民意を踏みにじるな！辺野古新基地建設強行を許さない首都圏集会」を開き、600人が参加しました。三線と二胡で奏でる宮古島出身の歌者・豊岡マッシーさんのデニーさん応援歌などのパフォーマンスでオープニング。集会は、総がかり行動実行委員会の長尾ゆりさん(全労連副議長)の司会ですすめられました。辺野古新基地建設を許さない沖縄のたたかひに連帯し、全国各地でたたかっていくことを確認しあう集会になりました。日本共産党・赤嶺政賢衆議院議員、立憲民主党・本多平直衆議院議員、自由党・日吉雄太衆議院議員、社民党・福島みずほ参議院議員、国民民主党・藤田幸久参議院議員、沖縄の風・伊波洋一参議院議員、無所属・柚木道義衆議院議員が参加しあいさつしました。



「止めよう！辺野古埋立て」国会包囲実行委員会の野平晋平実行委員長が主催あいさつ。「安倍首相や菅官房長官は沖縄県民に寄り添うというが、それとは反対で寄り添う姿勢を見せていない。防衛省は私人として国土交通大臣に対し埋立撤回処分についての審査請求と執行停止申し立てを行ったが、こうしたことを行うことは法治国家といたがたい。憲法守れ、法律守れと言いたい」と訴えました。

基地の県内移設に反対する県民会議共同代表の山城博治さんが沖縄のたたかいを報告。「辺野古埋立て土砂搬入に民間のセメント会社の栈橋が使われようとしている。セメント会社の栈橋は製品を出荷するためのもので、土砂を搬出するためのものではない。目的外使用だ」と指摘。「ゲート前で立ち向かってたたかっている仲間にエールを送ってほしい。ここでめげているは、未来は開けない。私たちは、現場で暴走を許さないと立ち向かっている。東京でも連帯したたたかいを」と呼びかけました。

専修大学の白藤博行教授が沖縄県の埋立承認「撤回」の正しさについて検証。公有水面埋立法や県と事前協議をしなければならないという留意事項を守っていないことなどを指摘しました。「政府は対話と協議をするふりをしている。法治国家になりすましている。ずるさを誤った衣でくるみすすめようとしている。県民の正しい怒りを法でくるんで守らなければならない」と強調。「国には、誤っていたと白状する勇気を持って!沖縄には、誤っていないという自信を持ってほしい!国は、沖縄と沖縄県民に対する敬意を持って!自堕落な国の政治・行政が、沖縄を壊す、地方を壊す。そして日本を壊す。許してはいけない」と訴えました。

辺野古土砂搬出反対全国協議会首都圏グループの毛利孝雄さんが、「本土からの埋め立て用の土砂搬出計画を止める」ための署名の取り組みを紹介。「辺野古埋立てに 8 割近く本土(西日本)から土砂が使われている。アルゼンチンアリ、ハイイログケグモなど西日本各地に生息する特定外来種が土砂に混入しており、沖縄の生態系をかく乱することが危惧される。沖縄と本土が連帯し辺野古埋立てを断念させるため、力と知恵を合わせてがんばろう」と呼びかけました。

総がかり行動実行委員会の藤本泰成さんが行動提起を行い、米軍による事故が繰り返されている現状を述べ、「県民の暮らし・安全が脅かされている状況は毎日戦争をしているようなもの。そういう状況を政府は一顧だにしていない」と批判。12月13日の防衛省への辺野古抗議行動、2月24日の辺野古への移設の賛否を問う県民投票などについて述べ、「あきらめないで連帯してたたかていこう」と呼びかけました。

★当面の行動★

●12月10日(月) 12時~13時 新宿駅西口

憲法共同センター 「9の日宣伝」

●12月19日(水) 18時30分~ 国会議員会館前

総がかり行動 「19日行動」